

パソコン・インターネットの利用状況

どこまで普及しているか

現代の大学生にとっては、さまざまな最新の情報を入手する手段として、テレビ・ラジオ等の放送メディア以上にコンピュータや携帯機器などを使って得られるインターネット上の情報の重要性が増大しています。

特にかつて主流であった新聞・雑誌のような印刷媒体のメディアの比重が相対的に下がり、多くの大学生が新聞を購読せずにもっぱらネットの情報に依存している状況になっています。新聞・雑誌のような従来型のメディアは、伝統に培われた豊富で深く掘り下げられた内容の情報源ですので、それを多くの学生が利用していない状況は残念なことです。一方で現在は完全にメディアの中心がネット情報に移行しつつあると言えるでしょう。

家庭では

大学でのパソコンの利用を考える前に、現在、家庭でパソコンはどのように使われているかを考えてみましょう。

現在、家庭でのパソコンの利用は、電子メールのやりとりやWebでさまざまな情報を調べたりmixi等に代表されるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）でメッセージを読んだり書き込みをする、あるいはチケットの予約やオンラインショッピング、オークションへの参加などのインターネットを使った用途が多くを占めているのが実情でしょう。なかには自分でブログを始めて自分の日常体験や考えたことなどを公開している者もいるかもしれません。

インターネット以外の用途としては、ワープロ・ソフトを使った文書作成、デジタルカメラや携帯電話で撮った画像の管理や印刷、デジタルビデオで撮影したムービーの編集や保存、はがき印刷ソフトを使って年賀状や暑中見舞いの印刷、コンピュータ・ゲーム、お絵描きソフトによるコンピュータ・グラフィック作成などが挙げられます。

Column

総務省の調査にみる普及率

総務省の平成21年「通信利用動向調査」によると、世帯当たりのパソコンの普及率は87.2%、携帯電話の普及率は96.3%と大半の世帯に普及しています。特に20～29歳の利用率はパソコン91.7%、携帯97.3%ときわめて高い普及率です。さらに各世帯のうちブロードバンド回線（高速なインターネット回線）でインターネットに接続されている世帯は76.8%、インターネット利用者数は9,408万人で人口普及率78.0%と高く、特に20～29歳のインターネット利用率は97.2%とこの世代ではほぼ全員がインターネットを利用していることになっています。なお企業におけるインターネットの普及率は99.6%であり、すべての会社がインターネットを利用していると言えます。

本学の状況

平成15年度からは高等学校で普通教科「情報」が必修となり、学生はコンピュータやインターネットに関する基本的な知識やスキルは高等学校でひと通り学んできています。

本学でも、理系・文系に関わらずコンピュータやインターネットを利用する知識と技術は、学生にとって不可欠なものとなっています。学部、専攻分野によって利用の頻度や傾向は異なりますが、いずれの学部であってもレポート作成、演習、実習、研究などの多くの場面でコンピュータは利用されています。

講義では、まだ全面的にコンピュータを利用する科目は多くはありませんが、その利用は年々増加していますし、学習・研究を進めるための道具としてのパソコンやインターネットの役割は非常に大きなものとなっています。

さらに履修登録や休講通知、さまざまな諸連絡がインターネットのWeb¹や掲示板機能を活用して行われています。本学でもBlackboard@TamagawaというWebによる講義支援システムやUNITAMAという大学情報ポータルサイトが従来の掲示板に取って代わって利用されています。Blackboard@Tamagawaでは、さまざまな講義の支援だけでなく、それを利用した遠隔教育で単位認定もすでに行われています。

大学の現場では

では、大学ではどのようにパソコンが利用されているのでしょうか。自分のパソコンを使ったり演習室のパソコンを利用する場合がありますが、いろいろな授業で多くのレポート作成を要求されるので、これまでの家庭での利用に比べて、ワープロ・ソフトはもちろん、データ処理やグラフ作成のためのExcelのような表計算ソフトでの作業、課題発表のためのPowerPointによる資料作成などが多くなります。また、近年はそうした作業でもインターネット上の資料やデータを収集・参照しながら行う場合もより多くなり、それらの利用の仕方の詳細については、「パソコン単独での利用」「インターネットとパソコンを接続しての利用」に分けて説明しています。